埼玉大学文化科学研究科修士課程学位論文・特定課題研究成果要旨

研究専攻（専門領域）	文化環境研究専攻		学籍番号	08CS016
氏名 吉川　百香	ローマ字	YOSHIKAWA Yuka	国籍（留学生）	

修士学位論文名	地域博物館における学校教育連携の可能性 ―地域に根ざした博物館活動を目指して―		
提出年月日	2010 年 1 月 12 日	指導教員	高久　健二
体裁（　論文　）	90 頁（1 頁文字数 約 1600 字）	言語	日本語
別冊添付資料等			
キーワード	博物館　生涯学習　教育普及　博学連携		

本研究の目的は、入館者の減少傾向、コスト・人員削減が進む一方で、生涯学習機関として、その役割を重視されている博物館、特に地域博物館の抱える問題や課題に対する改善策を提示することにある。その改善方法として、いかに地域との関係性を構築し、より多くの市民に利用してもらうかを考えていく必要があるが、本研究では、生涯学習社会の普及や学校教育の方針の変化といった社会背景から需要が高まっている、教育普及事業、中でも「博学連携」に着目した。

学校と博物館との連携は、学習指導要領の改訂により、ほとんどの公立博物館で行われている。そして博物館を訪れるのは、今後の地域を担っていく子どもたちである。彼らに博物館に対する興味を持ってもらえれば、将来的に博物館を利用する市民が増える可能性がある。しかし現在の博学連携は、単発的で表面的な連携に終わってしまっているのが現状である。これをその場限りのものではなく、継続的なものとして発展させていくことで、博物館がより地域へ根付く可能性が高まるのではないか。そこで本研究では、文献や聞き取りによる事例調査を踏まえ、従来から一歩踏み越えた博学連携の在り方の提言を試みた。

提言を行うにあたり、まず博物館の成立の過程や機能と役割から改めて「博物館とは何か」について整理を行い、博物館の教育普及機能が重視されるようになった背景を確認した。その整理を基に、本研究における「地域博物館」についての定義づけを行い、地域博物館が現在抱えている諸問題、それに対する各館の取り組みと現状に触れ、いまだ解決できていない課題を考察し、博学連携に着目する理由を述べた。そこで、博物館と学校教育との関係の変遷を整理した上で、現在の博学連携の事例を調査し、その実態を把握することを試みた。明らかになった大きな課題として、①学校側（教員）の博物館利用に対する意識の高さの問題、②博物館側の学校支援体制の整備の問題が挙げられた。しかし、決してどちらか一方の問題であるという訳ではない。双方の間でうまく意思疎通ができていないということは、どちらにも同様の問題が存在する。

よって、博学連携に対し「意識的問題」「構造的・組織的問題」の 2 つの視点から、①学校および教員の意識醸成のため、博物館側がそのためのサポートや協力を行うこと、②博物館職員が、博学連携および学校の博物館利用に関する調査研究を行うこと、③博物館の教育普及事業および学校教育の実態を、双方がそれぞれ把握し、相互理解を深めることにより、博学連携に対する意識を深めること、④効果的な博学連携を実現させるために、対等な立場で明確な役割分担を行い、連絡を取り合える体制を整備すること、⑤地域の住民の協力を得て、博物館と学校の双方の視点から活動を提案できる「コーディネーター」的な人材を置くこと、⑥継続性や更なる発展のため、博物館と学校間での役割分担を明確にしながら密に連絡を取り合うことが必要である、という提言を行った。